

一般ポスター 透析技術 5 (16:00~17:00)

P-2-640~P-2-649

2017 年 6 月 17 日 (土) 16:00-17:12

ポスター会場 | 展示ホール

座長：新部 武人 (芳賀赤十字病院)

座長：横 昭弘 (古川星陵あすか病院)

P-2-645

個人用透析装置洗浄法の変更による洗浄効果の検討

加藤 豪¹、立花 直樹¹、勝 佳奈¹、尾田 祐二¹、高橋 拓也¹、川澄 正朗¹

1:日進クリニック透析室

【はじめに】当院では、2016 年 8 月増床に伴い個人機ニプロ社製 NCV-10 (以下 NCV-10) を 3 台増台した。それに伴い RO 装置の主配管から分岐した枝配管に NCV-10 へ RO 水を供給しているが導入直後より生菌・エンドトキシンが予想を上回る値で発生した。また、枝配管より排液ラインを設け排液をしたが効果が見られなかった。その後 RO 配管の洗浄を試みたがコスト、技術面で断念した。2014 年に発表した洗浄方法 NCV-10 でも試みた。AN-TEC 社のクリーン α・カルトン C を使用し洗浄液・洗浄方法を変更し一定の効果が得られたので報告する。

【方法】培養キット、37mm クオリティモニタ (m-TGE 培地) を使用し、NCV-10 の透析液を 50ml 採取し 25℃ 7 日間培養し生菌を検出した。

【効果】洗浄液の濃度の変更、NCV-10 の洗浄プログラムでクリーン α 洗浄後、次亜塩素酸 Na を行う 2 液洗浄できるように装置を改造し、その後クリーン CLII にて洗浄を行う方法により生菌・エンドトキシンの発生を減少できた。また、酢酸洗浄ラインに発生した黒カビを防ぐことができた。